

令和5年度

練馬区立田柄第二小学校学校経営計画

校長 岩井 一雄

学校教育目標

- 元気な子供 ○ 考える子供 ◎ 思いやる子供

目指す学校像

夢や希望をもって、自己実現の基礎づくりを進める学校

中期経営目標

- 視点1 自分や他者を大切にする共生の心を育むとともに、児童の規範意識を醸成する学校
視点2 指導法の改善に務め、家庭と連携し児童の願いも生かせる授業・行事を進める学校
視点3 児童が心身ともに健康で、不登校やいじめのない学校
視点4 児童が練馬区や地域、母校を誇りに思うとともに、地域・保護者から愛される学校

令和5年度の取組

- ◎ 学校がチーム「田二小」として視点1を目指し、家庭・地域と連携しながら進めていく。
○ 道徳の研究で児童に培われた考え議論する力を、各教科領域に広げ、互いに考えを深め、練り上げる力に高める
○ プログラミング教育、タブレットパソコンを活用した教育などについて、指導のねらいを吟味したうえで、指導の工夫に努める
○ コロナ禍で得た知見を生かし、限られた時間の中で成就感を得られる感継続可能な教育活動を、児童からの発信も取り入れて、引き続き進める
○ 田二小スタンダードの定着を図り、全職員が共通の指導を行う

視点1

1. 考え議論することを通して、互いの考えを深め、認め合い、練り上げる児童の育成
- (1) 考え議論する道徳の研究を踏まえて諸授業・活動の充実を図る
自他の考えには相違点があることに気づかせ、共に学校生活を進めていくにはどのようなのがよいか、認め合い、高め合う経験を重ねる
- (2) 日常の取組の重視
あいさつ運動 児童の思考や学習態度の観察、面接の実施
2. 「美しい挨拶・所作」を大切にした言語環境の整備
- (1) 返事、あいさつ、廊下右側歩行の重視、教職員が率先垂範
- (2) 立場や場に応じた適切な敬称と心遣い

3. 落ち着いて学べる学習環境の整備

(1) 花と緑に囲まれたうるおいのある学習環境の整備

整備の行き届いた校舎内外 壁面を利用し植物や校歴、エピソード等の紹介写真展示

(2) マルチルームの積極的な学年、専科利用、各種教育情報の掲示、各教室の整理整頓

(3) ケヤキルーム(巡回型支援教室)、教育相談機能の連携と充実

- 校内委員会を中心に教員、特別支援教育コーディネーター、巡回教員、SC、専門員、心のふれ合い相談員、校外諸機関との連携
- 担任一人で抱え込まず、組織的対応
- 特別支援教育の手法を取り入れ、一人一人の困り感をなくす指導を推進
- 個別指導計画に基づいた指導の推進

視点 2.

1. アクティブラーニングの手法を取り入れた思考力・判断力・表現力の育成

- (1) 教師が1単位時間を貫く明確な指導観をもち、ねらいと発問を吟味したうえで、考え議論する時間を設定
- (2) 児童の言葉で学習課題を明確にもたせたり、学習の振り返りをさせたりする
- (3) 講師を召喚した研修会の実施、幼保・小中連携による研究の充実
- (4) 練馬区キャリアパスポートを活用したキャリア教育の実施

2. 授業のねらい、学ぶ意欲を大切にした授業の実施

- (1) 導入・板書計画、ノート指導の工夫
- (2) 日常的なタブレットパソコンの活用

3. わかる授業を進めるための指導体制の充実

東京ベーシックドリルの活用、習熟度別授業の充実、交換授業や合同授業の実施

4. 基礎・基本の充実

朝のモジュール学習、朝読書(1～4年)、家庭学習・補習学習の充実(タブレットパソコン活用、学校図書館の有効活用(読書旬間、読み聞かせ、探検ラリー おすすめの本紹介等))
校内研究では、議論し考えを深め、共に生きていこうとする児童の育成を目指し授業改善を図る

5. プログラミング教育の推進

算数、理科など、さまざまな教科でプログラミング的思考を取り入れた授業を工夫する

視点3

1. 体力の向上
 - (1) 取組カードの活用等、運動への取り組みの日常化
 - (2) 体育科授業の充実
体力テストによる授業改善、専門家の指導
2. 安全教育の充実
 - (1) 様々な危機的な状況を想定した安全指導、避難訓練、セーフティー教室、地域の力を取り入れた防災訓練
 - (2) 安全に関するさまざまな活動を行い、自助・共助の態度育成
3. 心の教育の充実
 - (1) 不登校やいじめのない学校づくり
 - (2) 一人一人の児童が抱える背景を深く理解した教育活動の推進
4. 食に関する指導の充実
 - (1) 給食を中心とした食に関する指導の充実
 - (2) 民間委託業者との連携
5. 健康に関する教育の充実
感染症防止のための継続的取組 養護教諭や学校医による指導 体育(保健領域)の充実
6. 家庭と連携した「早寝 早起き 朝ごはん」の取組

視点4

1. 児童の発想と地域力を生かせる体験的活動の充実
 - (1) 地域の方を招いた体験学習の充実
枝豆の収穫(1・2年) 青首・練馬大根、たくあんづくり(3年) 盆栽教室(4年)
田柄水道学習(4年) トウモロコシの皮むき(5年) 茶道体験(6年) 能教室(6年) 等
 - (2) 児童の思いや願いをもとにした行事の構築
体育学習発表会 展覧会 PTA 行事 葉かげの集い 卒業関連行事については、児童の発想、願いも取り入れ、実施可能な内容・形態を再構築していく

働き方改革に関する事項.

- 時数軽減モデル校として担任の時数軽減による計画的な職務の遂行を進めることにより、在校時間が週55時間以上にならないようにする
- 新たな提案については企画会、職員会議以前にも、広く情報の共有するようにして事前の理解を進めておき、時間短縮に努める
- 退勤時刻までに連絡、相談を終え、育児・介護等、お互いの時間を尊重する
- 長期休業中の閉庁日の設定 毎週水曜日を定時退勤日とする